

令和4年2月14日

若葉小学校保護者の皆様
若葉小学校地域の皆様
学校関係者評価委員の皆様

調布市立若葉小学校
校長 生田目 将

令和3年度 教育活動アンケートの分析と次年度へ向けて

【1】 はじめに

集計結果とグラフの通り、児童・保護者・地域・教職員の肯定的評価が8割を超える項目が多くを占めています。良好である項目の今後に向けては、次年度の教育課程編成に際し、継続したり踏襲したりすることでお示ししていきます。肯定的評価が8割以下の項目については、下記に示します。また、自由意見に関する集計と学校の考えを最後に示します。

【2】 肯定的評価が8割以下の項目について

- ① 『子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。』『子どもの生き方や将来のことについて考える機会がある（キャリアパスポートの活用）。』の保護者の肯定的意見が77%と58%にとどまっている。前者に関する「目標管理等の学級指導」の成果は見られるが、「生き方指導等」については十分ではないこと、今年度正式導入のキャリアパスポートの存在を保護者へ周知できていない。将来を見据えた目標設定および管理ができるキャリア教育の推進とその共有や連携を学校と家庭で推進していくことが必要であり、具体的には年二回設定した個人面談等を活用していく。
- ② 『保護者にとって子どものことを相談しやすい。(子どもは相談しやすい)』では、児童の回答のみが77%となっている。この数値を真摯に受け止め、相談機能の充実を図っていく。
- ③ 『本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。』では、保護者の回答が77%であり、オンラインや分散の公開、行事の参観を努力してきたが、従前と比較し保護者を安心させる情報量に至っていないことは否めない。
- ④ 『本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている。』保護者77%、教職員78%で感染症の落ち着き具合により左右されるので、今後も可能な限り積極的に活用していく。
- ⑤ 『私は、気持ちよく、あいさつをしている。』では、児童が78%と自己評価を下げている。あいさつ週間等のキャンペーンも必要だが日常化に向けた取り組みや児童の自信を育む対策を考えていきたい。
- ⑥ 『子どもは、家庭で自主的に学習をしている。』では、児童の92%比べ、保護者66%などの低数値である。家庭での学習内容や自主的の感じ方の差異があるので、この結果を受け止めて、次年度は時間設定や自主性の定義付けをして調査したい。
- ⑦ 『子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。』児童・保護者・教職員ともに、70%前後の数値であり、意識の向上への取組を学校と家庭で連携して行いたい。

【3】 保護者自由意見について

- ① 『子どもは、学校生活を楽しんでいる』に対して、3件の肯定的なご意見をいただきました。
- ② 『子どもの発見・気づきを大切にしている。学校のルールについて子どもに考えさせる指導をしている。教員が指導したルールについて子どもが理解している。学校のルールを適切に指導している。』では、要望1件とルールの自由度の導入についてご提案いただきました。多様性や自立性の育成に向けて前向きにとらえます。
- ③ 『学校行事（スポーツ大会、わかばステージなど）は、子どもにとって楽しい、達成感がある。』では、「子どもの達成感、成長、自信につながった。学年を2つに分けていただき見

やすかった」などの55件の肯定的意見をいただきました。一方で「6年生を全学年へ見せてあげたい。以前のように劇をやらせたい。自主性をもたせたい。スポーツ大会は見たかった」などの感想や「土曜日設定への疑問、伝統維持、マスクへの疑問、スポーツ大会のライブ配信や他校は見せてくれた。」などの改善点を提案されました。学校行事は、必須の授業以外の時間を確保し、その限られた時間の中で子どもへの教育効果を上げるために教職員が児童とともに最善を尽くしながら成り立たせるものです。感染症対策や種目や演目についても、学習指導要領や様々なガイドラインを遵守しながら最善を検討してまいります。個々の保護者の考えや願いに寄り添えないことが今後もありますので、丁寧な説明を行うことが本件の改善策として提示いたします。いつでも、ご質問ご相談ください。

- ④ 『本校は、保護者にとって子どものことを相談しやすい。日常の支援・助言・指導やノート点検・作品点検・コメント書きなどの対応を丁寧に繰り返している。日常の連絡（連絡帳・電話など）や個人面談などで家庭と丁寧に連携している。』では、「面談が2回あって大変ありがたい。丁寧な連絡で安心する。」など20件以上の感想をいただきました。連絡やノート指導などの学級格差のご意見をいただいておりますので、教員の個性を生かしたうえで児童に差を感じない学校体制を進めます
- ⑤ 『校長はリーダーシップを発揮している。教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。学校だより・学年だより・ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。』では、「校長室喫茶、HPなどの学校からの発信」などについての肯定的コメントを30件ほどいただきました。改善策として、さらなるデジタル発信や通知システム、SDGsのためのペーパーレス化の提案をいただきました。上記に関しては、学校とPTA本部が前向きに検討しております。ただし、すべての書面のHP発信や行事授業公開などの動画配信などの意見につきましては、学校の発信の意図に対し、個人情報保護の観点で不可能な場合が多々ありますことご理解ください。（学年・学級だよりの顔写真や行事などの児童が特定できる動画などのインターネット上での配信は行えません）
- ⑥ 『学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。』では、実施に対する好感想をたくさんいただきましたが、時間の制限や方法などについて改善の意見を2～3件いただきました。保護者の方の学校への不安や不信を抱かせないためにも、今後も感染症対策を講じながら前向きに計画してまいります。
- ⑦ 『近隣の中学校と連携や交流活動が行っている。』では、特に四中の校庭や体育館の借用による運動機会の増加について、成果を認める感想をいただきました。以前と比較した場合に、不足を訴えるご意見もいただきましたので、工夫を凝らしてまいります。
- ⑧ 『安心・安全な学校づくりを進めている。避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。』では、若葉ステージでの地震対応や登下校の安全指導についてご指摘いただきましたので学校内で検討してまいります。
- ⑨ 『あいさつの励行・あいさつ運動は、コミュニケーション力と社会的マナーを育成するために、効果的である。』では、好意的なご意見を複数いただきました。一方で、あいさつができない児童がいることを指摘されています。引き続き、校内でもあいさつの励行を提唱していきますので、ご家庭や地域でのご協力もお願いいたします。
- ⑩ 最後に、本教育活動アンケート自体への必要性や回答が難しいお考えをいただきました。昨年までは必要最低限の項目で、保護者のみから調査してまいりましたが、今年度より項目の検討と増設、また保護者に加え地域・教職員・児童に協力いただき、四者比較を行い学校改善の資料にします。今後も、可能な限りご協力いただきたく存じます。

以上になります。アンケートへのご協力に感謝申し上げますと同時に、今後とも若葉小の子どもたちのために、学校教育へのご理解ご協力をお願いいたします。